



内なる  
バトル

川崎ゆきお

世の中では様々なことが起きているが、個人の中でも色々なことが起きている。

下田は自分のことで忙しいタイプだ。社会、世間のことより、自分のことで一杯一杯だ。

そのため、ニュースなどで流れる世間のことには無関心ではないものの、そこまで頭も手も回らない。しかし自分だけのことで、世間と繋がっている。電気代を払わなければ電気が止まる。止まると困る。下田自身が困る。だから、電気代は口座落として払っている。ただ、残高がなくなれば、落ちなくなり、代わりに電気が落ちる。

残高を維持するためには、預金を維持しないといけない。そのため、働いている。電気だけではなく、色々なものが止まると困るからだ。

困ったことにならないために、下田は最低限のことはやっていることになる。

自分さえ困らなければ、それで満足なのだが、なかなかこの満足感は維持出来ない。世間からの要求だけではなく、内からの要求も多い。その内なる要求を満たすだけでも一杯一杯なのだ。

「それで、何がどうなってるの」古くからの友人が訊く。

「知ってるくせに」

「知らないよ。下田君の微妙なところはね」

「尾籠と聞こえるけど」

「ああ、それに近い欲求じゃないのかい」

「次のパソコンを買おうかと思っているんだけど、タブレットでもいいかなあと思い出したんだ。その結論がまだ出ない」

「その検討で忙しいわけ」

「ああ、暇なときや、時間が空いたとき、いや、それだけじゃない、仕事中でもそれを考えてる」

「どちらでもいいんじゃない。タブレットの方が軽いし、安いし」

「それも考えた。どちらでもいいと」

「じゃ、買えば」

「だから、どちらを買うの」

「どちらでもいいんだから、どちらを買ってもいいんだよ」

「それが問題なんだ。どちらかを選ぶと、片方が急にまた浮かび上がる。うるさくね。それを止めるため、そいつを選ぶと、そのときは静かになるが、しばらくすると選ばなかったものが騒ぎ出す。だから決まらない。タブレットを選んでも7インチか10インチかの決着が付かない」

「それで忙しいわけ」

「ああ、頭の中はそれで一杯一杯だ」

「そんなことよりもっと大事なことで頭を使えよ」

「たとえば」

「うーん、そうだねえ。今度の選挙なんかがいいかな。その論点で二つに分かれる。賛成か反対かでね。これは誰を選ぶかで世の中が変わったりする」

「変わらないよ」

「それを言っちゃおしまいだ。言いつこなし。いいね」

「そういう話は遠いなあ」

「まあ、興味がないのなら仕方がない」

「パソコンにするか、タブレットにするかの方が重要案件なんだ」

「はいはい」

「それはいつまで続くわけ」

「ああ、まだパソコンは動いているから、それが壊れるまでかな。そこまで来ると実行しないと  
いけない。選択しないといけない」

「仕事でワードやエクセルを使っているだろ」

「それなんだ、問題は。しかし、家に持ち帰って仕事をする必要が何処にある」

「タブレットにすれば、しなくてよくなるかい」

「そう思う」

「タブレットでも扱えるよ」

「うーん」

「しかし、細かい設定なんかはしんどいけど」

「それなんだ」

「じゃ、どうせ持ち帰って仕事になるんだったら、使いやすいパソコンにすればいいんだよ」

「エクセルワードの新バージョン付きは高いんだ」

「それで、堂々巡りをしているんだね」

「うん」

「平和だね」

「ああ、毎日バトルだよ」

「はいはい」

了